

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つながろう！岩手

三陸復興

第 65 号

平成 26 年 6 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

梅雨に入り長雨の続く中にも、時折照りつける陽射しに初夏の訪れを感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

5/29 (木)

岩手県水産技術センター調査船「北上丸」の竣工式が開催されました

5 月 29 日（木）岩手県水産技術センターでは、第 7 代目となる漁業指導調査船「北上丸」（38 トン）の竣工式が開催されました。

新しく建造された北上丸は、沿岸域での水産資源調査や海洋観測業務を行うため、最新の科学調査機器と多様な漁労機器を搭載しており、調査結果を速やかに漁業者に伝えることが可能となりました。

また、東日本大震災津波により甚大な被害を受けた同センターの研究施設も、今年 3 月に復旧工事が完了した

ことから、北上丸の竣工式に合わせて、現在取り組み中の研究のうち、「通電加熱による新しい加工技術の開発」、「貝毒プランクトンモニタリング調査」、「ワカメ養殖の効率化に向けた実証研究」及び「アワビの効率的な種苗生産研究」の 4 課題の成果を出席者に紹介しました。

同センターでは、最新の調査船の完成と研究施設の復旧により、水産業の復興・振興へ向けた情報提供及び試験研究を一層推進していくこととしています。



竣工式（知事式辞）



北上丸前でのテープカット



貝毒プランクトンモニタリング調査に関する紹介

『いわて復興インデックス報告書（第 10 回）』のデータから

沿岸被災 12 市町村を中心とした本県の復旧、復興の現状やその推移を把握するためのデータを定期的に取りまとめている「いわて復興インデックス報告書」。

今回は、第 10 回（平成 26 年 5 月末公表）結果から、主なデータを紹介します。

がれき処理の進捗率 : 平成 26 年 3 月末時点

▶進捗率 111.1%（処理量：583.7 万トン）

復興加速のシンボルとして着実に進捗してきたがれき処理は、3 月末をもって終了。

復興道路供用率 : 平成 26 年 4 月末時点

▶供用率 31%・供用延長 123 km
（平成 25 年 4 月末時点：28%・110 km）

前年同月比で、プラス 13km の供用延長。計画延長 393km に対する供用率は 31%となっている。

沿岸部の応急仮設住宅入居戸数 : 平成 26 年 4 月末時点

▶応急仮設住宅入居戸数 11,464 戸
（平成 23 年 12 月時点：13,218 戸）

ピーク時（平成 23 年 12 月、13,218 戸）と比較すると、13.3%減となっている。

※復興道路

- ・三陸沿岸道路
（三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫道路、八戸・久慈自動車道）
- ・東北横断自動車道釜石秋田線
- ・宮古盛岡横断道路（国道 106 号）

いわて復興応援団（員）大募集中！

知って、買って、食べて、行って応援！

登録無料



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

5/28 水

ベネズエラ発祥の音楽教育システムを大槌へ！

「音楽」を通して子どもたちの心のケアを

大槌町

5月28日(水)、ベネズエラで発祥した音楽教育システム「エル・システム」を大槌町に導入しようと、協定書調印式が役場で行われました。

調印式には、事業を実施する一般社団法人エル・システムジャパンの菊川穰代表理事やベネズエラ特命全権大使の石川成幸氏らが出席し、式の冒頭で碓川町長は「大槌町は、子どもから大人まで吹奏楽を活発に取り組んでいる。この音楽教育システムにより、子どもたちの豊かな心の醸成が図られるものと期待しています。」と挨拶しました。

同システムは、約40年前に始まったもので、経済的な事情に関わらず、子どもたちが楽器の演奏や合唱を通じた音楽教育を無償で受けられるもの。“音楽を通して生きる力を育む”ことを目的とした事業で、すでに50カ国以上の国や地域で展開されており、日本では福島県相馬市に続き大槌町が2カ所目となります。

今後は、吹奏楽活動への指導者の派遣、未就学児や小学生などの居場所づくりとなる音楽教室なども進める予定です。



碓川町長(左)と菊川代表理事(右)



調印式後の記念撮影：石川ベネズエラ駐日大使(中央)

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。第19回目は、瀬知行さんを紹介します。

未来のさんりくびと

NPO法人
「WITH YOU GLOBAL
~あなたと共に~」副理事長
瀬知行(せともゆき)さん



瀬さんからのひと言：
喜びも悲しみも、お互いにシェアして、孤独のない心の復興を目指したい！

活動への熱意を語ります。

震災から時が経ち、地元の方々の話の内容も変化する中、孤独を感じている方々の話を聞くことの重要性を感じています。

カフェを通して地元へ貢献

2014年5月、若者が集える場所を提供する目的でオープンしたカフェ「エクレシア コーヒー」は、おいしいコーヒーを飲みながら、地元の方々がコミュニケーションをとれる場として活用されています。

「震災直後に比べると、地元の方々の話の内容も段階的に変わってきている。支援に来た人が大船渡のために活動するだけではなく、地元の高校生が地元の子どもたちのために貢献するモデルを作りたい。支援者と被災者という線引きではなく、同じ目線で歩んでいきたい。」と語る瀬さん。

カフェという場所を通して、地元の方々の話に耳を傾けながら、特に子どもたちのために役に立ちたいという熱い思いを感じました。

PROFILE

山口県山口市出身。大学では保育科に進み、保育士となる。

ニュースで東日本大震災津波を知り、東北の子どもたちに何かをしたいと考え、2011年5月、6月に南三陸町(宮城県)、8月には陸前高田市、南三陸町にボランティアとして訪れる。

以来、沿岸には長期での働き手が必要と感じ、2011年10月に岩手県に移住。2012年4月に大船渡に移り、今年5月にオープンしたカフェ「エクレシア コーヒー」で活動している。

地元の方々と寄り添っていききたい

瀬さんは「自分は特別体力がある訳でも、専門的な技術を持っている訳でもない。自分に来ることは、地元の方々や子どもたちの話を聞き、寄り添うことだと思う。」と、人と関わる

岩手県の被害状況

平成26年5月31日現在

- ▶人的被害 死者(直接死): 4,672名 行方不明者: 1,132名
- ▶建物被害(住家のみ、全半壊) 25,706棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年4月30日現在

- ▶義援金受付状況 約181億3,534万円(89,001件)
- ▶寄付金受付状況 約195億5,962万円(6,803件)
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約65億4,000万円(13,190件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第65号 平成26年6月15日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス